

愛努民族的歷史文化

アイヌ民族の歴史文化

The History and Culture of Ainu

蔡中涵 台灣原住民族教授學會 理事長

富田哲 翻譯

圖片提供 蔡中涵



愛努民族是散居在蝦夷島（現在的北海道）、樺太（現在的庫頁島）、千島群島等廣大區域的民族。對其起源來自何處，研究者目前尚無定論，但是，一位俄國的人類學家的研究還認為他們是南島語系民族的一支，不管其論點如何，愛努民族在十二世紀開始就已經形成由酋長統治的原始社會組織，並具有自己的獨特文化。

「愛努」指「人」的意思，這有點像台灣的「布農族」等族群也自稱為人一樣的意思，日本的愛努民族僅指居住在北海道者，現在人口約 23,782 人（2006 年北海道政府之調查），而居住在北海道以外的愛努人並沒有列入人口的調查範圍內（東京都僅在 1988 年做了一次普查，居住在東京的愛努人有 2,700 人）。

アイヌ民族は蝦夷島（現在の北海道）、樺太（現在のサハリン）、および千島列島などの広大な地域に広がる民族である。その起源について、現在のところ研究者の間に定説はないが、あるロシアの人類学者の研究によれば、南島語系民族の一派であるということである。いずれにせよ、アイヌ民族は 12 世紀初頭には首長統治による原始社会組織を形成しており、独自の文化を有していた。

「アイヌ」は「人」を意味しているが、これは台湾の「ブヌン族」などが人にあたる意味の語でみずからを称しているのと似ている。現在、日本のアイヌ民族の人口は 23,782 人（2006 年北海道調査）であるが、北海道以外に居住するアイヌを対象とした人口調査はおこなわれていない（東京都が 1988 年に一度だけ調査をおこなっており、東京に住むアイヌは 2,700 人とされている）。ゆえに、日本全国のアイヌ民族の人口を正確に知る手立

因此，日本全國的愛努民族之人口無切確的數據可查。

從愛努民族發展的歷史來看，1604年日本幕府政權在蝦夷島成立松前藩，正式統治。1869年改稱蝦夷地區為北海道，二年後公布「戶籍法」把愛努人編為一般平民，禁止其傳統習俗並實施日本文化與日本語教育的同化政策，到了1875年先頒布「創氏改名法」，使用日本姓名，翌年乾脆就把愛努人改稱為「舊土人」，全國統一對愛努人的稱呼。自此愛努民族面臨民族消滅、語言文化消失的厄運。多年來日本政府堅持其一貫的立場，認為愛努民族是國內的「少數民族」，並不承認其為「原住民族」（日本政府稱為先住民），更有人認為日本是「單一民族的國家」。

直到1997年3月才有了戲劇性的大轉變。北海道政府在二風谷愛努民族的傳統領域上建水壩，愛努民族一狀告到法院控告北海道政府侵犯其土地權。同年3月27日札幌地方法院的判決文認為所謂的「先住民族，意指歷史上還沒有受到國家的統治之前就生活在一定的領域上，其文化和民族意識有別於國家統治之主體民族，且從過去到現在繼續傳承其獨特的文化和民族意識之集體民族」。這個判決

ではない。

歷史的に見ると、1604年に江戸幕府は蝦夷島に松前藩を設置し、正式に統治を開始した。1869年に蝦夷地は北海道と改称、2年後には「戸籍法」が公布されアイヌは一般平民のなかに組みこまれた。伝統習俗は禁止され、日本文化や日本語を教育する同化政策が実施された。1875年には「創氏改名法」が制定され日本式姓名を使用するようになり、翌年にアイヌは「旧土人」と改称、全国的にアイヌに対する呼称が統一された。以後、アイヌ民族は民族の消滅、言語文化消失の危機にさらされることになる。日本政府は一貫して、アイヌ民族は国内の「少数民族」であって「原住民族」（日本政府は先住民としている）ではないという立場をとっており、日本は「単一民族国家」であると考えている人々もいる。

1997年3月にいたって劇的な変化が現れた。北海道がアイヌ民族の伝統的聖地である二風谷にダムを建設するのは土地の所有権の侵害だとして裁判が争われていたが、同年3月27日に札幌地方裁判所は判決文のなかで、「先住民族とは、歴史的に国家の統治が及ぶ前に一定の地域において、国家統治の主体となっている民族とは異なる文化とアイデンティティを持ち、その後も、従前と連続性のある独自の文化及びアイデンティティを維持している民族的集団である」と述べた。この判決によって、アイヌ民族は「先住民族」としての地位を獲得することになった。同年5月に、日本政府は制定後100年にもお

終於讓愛努民族爭得了「先住民族」的民族地位。同年5月，日本政府廢止長達百年的「北海道舊土人保護法」，並制訂新法「愛努文化振興暨愛努傳統知識之普及與啟發之法律」簡稱為「愛努文化振興法」或「愛努新法」，這個法律的特色是沒有把愛努民族的語言和民族教育涵蓋在內，刻意將愛努民族的民族發展限定在文化的框架內，土地權等聯合國所宣示的原住民族權利都被忽視了。

今年的暑假我走訪南太平洋四個國家，八月底到夏威夷大學拜訪了幾位老友之後，轉道日本專程去了北海道白老愛努民族博物館參觀訪問，正巧博物館的員工舉行「鮭魚儀式」（這個儀式未對外開放參觀，當天特別只邀請幾位外賓參與），儀式在室內舉行，愛努人將捕獲到的第一條鮭魚送給火神，祈求火神保佑當年村民平安捕撈豐收。儀式過程肅穆，很少言語也沒有歌唱，祭神者約有二十人，每人面前擺一碗日本酒，碗上放一小木片（日語稱捧酒箸），在儀式將畢時每人用木片沾酒祭神（台灣原住民則用食指沾酒祭天地和祖靈），隨後將碗內的酒一口喝完，在此同時館內的工作人員另外倒杯酒也請賓客喝。最後主祭的長老將插在火坑（祭壇）上的木棍（其上方削成像棉花棒一樣）點

よんだ「北海道旧土人保護法」を廃止し、あらたに「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」（略称「アイヌ文化振興法」あるいは「アイヌ新法」）を制定した。この法律には、アイヌ民族の言語と民族教育に関する言及はなく、アイヌ民族の発展を文化的なわくぐみのなか限定することをもくろみ、土地権など国連宣言でうたわれている先住民族の権利を無視するものになっている。

今年の夏休み、私は南太平洋の4ヶ国を訪問し、8月にはハワイ大学の友人たちと旧交を温めたあと日本へ赴いた。そして北海道白老町のアイヌ民族博物館を訪れたが、折よく、博物館の館員たちがとりおこなう初鮭を迎える儀式（*asir-cep-nomi*）を見学することができた（この儀式は公開されておらず、当日は何人かの来賓のみが招待された）。室内でおこなわれた儀式は、アイヌが初鮭を火の神にささげ、その年の村民の平安や豊漁を祈願するものである。ことばや歌もほとんどないおごそかな儀式の参列者はおよそ20人で、おのおのの前には日本酒が置かれていた。杯には小さな木片（日本語で捧酒箸、*ikupasuy*）が入っており、儀式が終わりに近づくと、一人一人が木片に酒をしめらせ神にささげた（台湾原住民は人差し指に酒をつけて天地と祖霊にささげる）。そして杯の酒を一気に飲み干す一方、館員たちは酒を注ぎ来賓に勧めた。最後に祭主の長老がいろり（祭壇）にさした木の棒（上の部分は綿棒のように削られている）に点火して燃やし、儀式は滞りなく終わりを告げた。

火燒盡，儀式即告圓滿結束。

愛努民族的傳統宗教信仰是泛靈信仰，其中最大的儀式應屬「送熊靈儀式」，即要宰殺捕獲到的熊時要舉行三、五天的儀式（儀式過程盛大莊嚴，因此現在不易看到）。愛努人認為熊神下凡，把自己的肉體奉獻給心地善良的愛努年輕人，愛努人食用了熊的肉之後，把頭部和毛皮放在屋外特別製作的木架上，熊前放置熊的最愛——鮭魚，好讓熊靈升天時一起帶回去。愛努人認為人、神可自由交流，因此，神、人、物之間是連接的關係，每一個部分就是大自然的一部分，不能分立存在，因此，對生命的尊重和敬畏大自然，是生命意義的極至表現。相信愛努民族的文化多樣性內涵可以豐富我們的人生。

今年9月通過的「聯合國原住民族權利宣言」，日本也是簽署國之一，而且在不久前北海道大學愛努・先住民研究中心與政治大學原住民族研究中心簽訂了學術交流與合作的協定，可預期未來的「愛努民族研究」將大有發展。



白老愛努民族博物館 ▶
正舉行「鮭魚儀式」。

アイヌ民族の伝統宗教はアニミズム信仰であり、最大の儀式は「クマの霊送り」(iomante 又は iyomante) であろう。これは、捕らえたクマを屠殺する際に3—5日にわたっておこなわれる儀式である(儀式は盛大かつおごそかであり、今日では見るのが容易ではない)。アイヌはクマの神が下界に降りてきて、みずからの肉体を善良なアイヌの若者にささげると考えているが、儀式ではクマの肉を食した後、屋外に特別に設置された木の棚に頭部と毛皮を置き、昇天する際に持って行けるように好物のサケをそなえる。アイヌは、人と神は自由に交流ができると考えており、相互につながる神、人、物のそれぞれは、大自然の一部で不可分のものであるとする。ゆえに、生命の尊重と大自然に対する畏敬は、生命の意義の究極的な表現なのである。アイヌ民族の文化の多様性が内包するものは、われわれの人生を豊かにしてくれるにちがいない。

本年9月に採択された「先住民族の権利に関する国連宣言」は日本も署名国となっている。また最近、北海道大学アイヌ・先住民研究センターと政治大学原住民族研究中心とのあいだで学術交流協力協定が締結された。今後、「アイヌ民族研究」の大きな発展が期待できる。

族研究中心とのあいだで学術交流協力協定が締結された。今後、「アイヌ民族研究」の大きな発展が期待できる。